

黒潮等の概況

黒潮流軸付近の表面水温は29℃台で、前号より-1～+1℃となっています。

流軸の位置と水温	今号 (8月3日～16日)			前号 (7月20日～8月2日)		
起 点	方 向	距 離	水 温	方 向	距 離	水 温
奄美大島 (曾津高埼)	NW	90海里	29℃	NW	85海里	30℃
屋久島 (黒崎)	WSW	65海里	29℃	W	60海里	30℃
種子島 (門倉埼)	S	30海里	29℃	S	30海里	29℃
都井岬	E	35海里	29℃	E	40海里	28℃

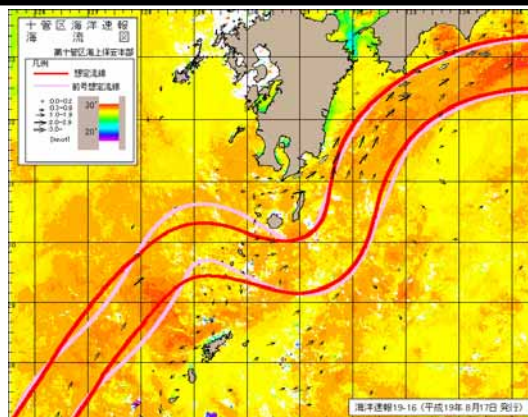
(1海里=1,852メートル)

沿岸域の水温

沿岸海域の表面水温は25～29℃台で、前号より同温～+1℃となっています。

海 域	今号 (8月3日～16日)	前号 (7月20日～8月2日)
鹿児島湾	27～29℃台	26～28℃台
甌島列島～薩南海域	27～29℃台	27～29℃台
大隅海峡～種子島・屋久島	28～29℃台	28～29℃台
日向灘沿岸域	25～28℃台	25～27℃台

十管区海洋速報第19-16号
(流況図+NOAA画像)



日本の海洋調査が始まった日

海上保安庁海洋情報部は、海図を刊行するため、海の測量を行ったり、海流の速度や潮の満ち干を計測するなど、海に関する科学的な情報を収集しています。これらの海洋に関する調査を日本で最初に行ったのは、海上保安庁海洋情報部の前身である明治政府の兵部省海軍部の水路局という機関でした。

1871年(明治4年)、明治政府は兵部省に海軍部及び陸軍部を創設し、海軍部に水路局を設置しました。この年設置した9月12日をもって、我が国が海洋調査を始めた日として、「水路記念日」と定めております。

明治維新前後の時期においては、我が国沿岸の測量はイギリスをはじめとする諸外国により行われており、明治政府は海運立国を国政の方針とし、また、国防的見地からも沿岸の測量や海図の刊行にいたる一連の業務を最も緊急の事業としていました。

海軍水路局は、現在、海上保安庁海洋情報部として生まれ変わり、我が国の海図作成業務のほか、大陸棚画定調査、地震予知・火山予知調査、マリンレジャーの普及に応えた情報提供など、海洋に関するさまざまなニーズに対応しております。海に関する情報に興味のある方は、十管区海洋情報部「海の相談室」をご利用下さい。

→URL:<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN10/>